

苦しい中での快挙！！

全国・全農乾椎茸品評会で2名の生産者が農林水産大臣賞を受賞！

久慈地域の乾しいたけは、品質の高さで全国的に高い評価を得ていますが、原発事故による風評により市場単価が著しく下落するなど、極めて深刻な被害を受けています。

こうした中、全国レベルの乾しいたけ品評会において地域の生産者2名が最高賞である農林水産大臣賞を受賞しました。



【知事へ報告 正路氏(左)、中居氏(右)】

1 第61回全国乾椎茸品評会

今年は原基形成期、発生期前の降水量が少なく、また、発生期の気温が低かったことなどから昨年に比べ発生量が少なく、発生時期が遅れた状況でした。

6月14日に久慈地区乾しいたけ品評会を開催し、上位入賞者を全国品評会へ出品しました。その結果、茶花どんこの部で、普代村の正路正敏氏が見事農林水産大臣賞を受賞しました。

2 第46回全農乾椎茸品評会

6月13日、岡山県で開催された全農の乾椎茸品評会では、普代村の中居齋氏が、昨年につき、花どんこの部で2年連続で農林水産大臣賞受賞という快挙を成し遂げました。



【正路氏：茶花どんこ】



【中居氏：花どんこ】

この他、全国乾椎茸品評会では茶花どんこの部で高城邦夫氏(洋野町)が、日椎連乾椎茸箱物品評会ではスライスの部で久慈石太郎氏(久慈市)が林野庁長官賞(最高賞)を受賞しました。

風評被害による厳しい生産環境の中で、地域から2名も最高賞を受賞できたことは大変明るいニュースとなりました。

久慈地域の生産者は、「出荷制限に苦しむ仲間にもエールを送りたい。岩手のしいたけの灯を消してはならない」という気概のもと踏ん張っています。